



NewsLetter from SPH

No. 8



平成 28 年度 京都大学 SPH 卒業謝恩会 2017 年 3 月 23 日 La Tour にて
Graduation party on Mar 23, 2017 at La Tour

はじめに

みなさん、こんにちは。同窓会ニュースレター、第 8 号を発行です。

表紙の写真はおなじみの謝恩会の集合写真です。昨年度も多くの学生が卒業し、就職、進学されました。そうした卒業生をつなぐためにも、同窓会活動を少しずつではありますが、充実にむけて取り組んでおります。みなさまのご協力よろしくお願いいたします。

専攻長挨拶 Dean's Message

京大 SPH 同窓の皆さまへ



2000 年の発足以来、京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻〈京大 SPH〉はすでに 17 年目を迎え、400 人を越える MPH、DrPH、PhD を輩出してきました。

国内外の様々なパブリックヘルスの現場で、その最前線を担い、最先端を切り開く人材として活躍している卒業生の姿は、まさに目を見張るものであり、専攻の関係者として大いに心強く、そして誇らしく感じるものです。

このたび、そのような本専攻のすべての関係者が、卒業年次、分野、学生・教員の違いを越えて、京大 SPH として集い、交流する場として、SPH 同窓会ニュースが刊行される

ことは喜ばしい限りです。

この場をお借りして、本専攻関係の方々の一層のご活躍を祈念すると共に、京大 SPH を様々な形で応援して下さいの方々への心よりの感謝を込めて、ご挨拶とさせていただきます。

2017 年 5 月

社会健康医学系専攻専攻長
中山 健夫

同窓会活動 Alumni Activities

2016 年度 SPH 同窓会総会を開催

同窓会規約により、2017 年 3 月 23 日の学位授与式の日により 2016 年同窓会総会を開催し、2016 年度の活動報告、2017 年度の活動計画について審議し、承認されました。役員は任期 2 年の中間ですので、選任はありませんでした。以下の通りの体制です。

会長 原田浩二 (3 期生) (事務局長兼任)

副会長 小林大介 (11 期生)

会計 高橋由光 (6 期生)

評議委員

1 期生 山崎新

2 期生 鍵村達夫

4 期生 植谷可恵

5 期生 福田治久

6 期生 石見拓

村上玄樹

7 期生 山口喜志子

8 期生 中村英輔

9 期生 仙石多美

11 期生 市川佳世子

福岡真悟

12 期生 白鳥博之

13 期生 小川雄右

14 期生 佐藤亮

島本大也

大学院生役員 廣江貴則 (15 期生)

寺岡英美 (16 期生)

監事 菅田真子 (14 期生)

2017 年度の活動については、昨年に引き続き、卒業後の連絡網・情報提供、東大や帝京大との SPH 同窓会合同サロンの開催、ニュースレターの発行、会員名簿の作成準備となっており、同窓会連絡網の仕組みづくりを進めていきます。また同窓生の集まるオフミーティングの開催、在学生を含めた活動の促進、同窓会総会の開催日時調整などの課題についても提起され、検討を進めることになりました。

Facebook グループのお知らせ

Facebook グループ「京大 SPH 同窓会」が 2016 年より開始しております。まだ登録されていない方は、ぜひご参加ください。

<https://www.facebook.com/groups/1758206774401313/>

第 9 回 SPH 同窓会交流サロンを開催

昨年度も他大学 SPH 同窓会との交流を行いました。京都大学・東京大学・帝京大学 SPH 同窓会合同で第 10 回 SPH サロン「専門職が被災したとき ---避難所運営を知る---」、が実施され、京大からも各回 10 名程度が参加し、東大、帝京大、慶応大 SPH などの学生、卒業生と交流を深めることができました。

第 75 回日本公衆衛生学会総会(大阪) で自由集会を行いました

日本においては 2000 年から公衆衛生大学院の設立が始まり、Master of Public Health (MPH) を授与する大学院は 10 を超えて、さらに新たな大学院、コースが設立されている状況です。まだ歴史は浅いものの、MPH 取得者がどのような場でどう活躍しているかを共有し、それぞれのキャリアパスを考える場を自由集会で持つことを企画しました (10 月 26 日、CIVI 北梅田研修センター、世話人は京大、東大 SPH から構成されました)。北里大学医学部准教授の宮木幸一先生から新設される成田の医学部と公衆衛生大学院の構想について、NPO 法人 Initiative for Social &

Public Health 代表理事の渡邊 亮先生から iSPH の活動を通じてみられた神奈川県 MIS 構想について、東北大学歯学研究科助教の坪谷 透 先生から日本の SPH のグローバル化に関連して、これまでの経験と現在のキャリアと MPH の意義について講演を行っていただき、その後、参加者全員でディスカッションを行いました。SPH の卒業生、在学生のみでなく興味を持つ公衆衛生関係者を含み多様な参加があり、今後も開催地域も勘案して継続していきたいと考えております。



教室近況 Department Activities

医療統計学分野

医療統計学分野では、疫学研究・臨床研究における効率的なデザイン、デザインに基づく統計解析方法やその統計理論についての研究を行っています。昨年度の課題研究テーマは「安全性シグナル検出法におけるマスキングの影響と簡便な除去方法の提案」でした。より有意義な方法論が提案できるよう、日々研究に励んでいます。

本年度は新入生が3名入り、専門職学位課程6名、博士後期課程1名となりました。日々の講義に加え、毎週火曜日はセミナーを行い、月に一度は、学外の大学、研究機関、製薬企業等の医療統計学の専門家とともに拡大セミナー（Kyoto Biostatistics Seminar: KBS）を実施しています（昨年度末で146回目の開催となりました）。発表内容は多岐にわたるため医療統計に関する幅広い知識を得ることができます。

また、平成30年4月から臨床統計家育成コースの学生受け入れを開始します。皆様の周りにデータサイエンスに興味のある方がいましたら、是非研究室までご連絡ください。

医療統計学分野 HP
(<http://www.kbs.med.kyoto-u.ac.jp/>)

医療疫学分野

教員・院生の動向（2016年4月～2017年4月）

医療疫学分野では、設立以来、現在までに65名の卒業生を送り出してきました。その中で21名が博士を取得し、7割以上が教職や研究職に就いて全国各地でご活躍されております。今日まで、教授6名（ナショナルセンタ

一部長等教授相当待遇含む）、准教授12名、講師6名、助教17名を輩出しております。

2017年度は博士課程5名、専門職学位課程2名が入学しました。現在、23名の大学院生が在籍し、大変賑やかに研究、教育を行っています。特別研究学生も2名在籍するなど他大学との交流も活発です。

研究面では、大規模データベースを活用した臨床疫学研究、地域を拠点としたコホート研究、診断法評価研究、医療の質を評価する研究などを主体として、2000年発足以来、現在までに約370編（うちIF5以上のHigh Impact論文が約60編）の英文原著論文を発信してまいりました。近年、我が国においても、既存の大規模データベースに基づく研究が大幅に増えてきましたが、医療疫学ではそのようなデータベースの持つ限界点を踏まえた上で、最適な研究デザインと解析手法を指導することが可能な教室であると自負しており、教員・院生共に日々その探求に取り組んでいます。

教育面では、福原が開設当初よりプログラムディレクターを務めるMCRにおいては、2005年の開講以来、163名の卒業生、4名の教授、そして院生による英文原著論文も600編を超えるまでとなりました。現在は、課題解決型高度人材養成プログラム（中山教授）においても、MCRのエッセンスを全国に提供するためのプログラムMCR Extensionに協力しています。

社会活動では、医療疫学分野が一丸となって福島県での健康長寿事業に取り組んでまいりました。2013年から福原が福島県立医科大学の副学長を兼任、また臨床研究イノベーションセンター・白河総合診療アカデミーの設立を支援しました。

現在の教員は准教授の山本洋、助教の池之上との 3 名体制です。協力教員の福岡は、京阪神次世代コンソーシアム (K-CONNEX) の特定准教授となりましたが、引き続き院生指導など教育活動に貢献してくれております。また、清水、未海に加え、新たに紙谷、山本舜の両名が協力教員となり、博士院生とともに屋根瓦式の指導体制に協力してくれており、感謝しております。

今後も医療を変える研究を推進し、健康・医療に関わる様々な課題の解決を行える卒業生を社会に送り出して行きたいと考えております。

薬剤疫学分野

2016 年 11 月 18 日ー20 日に京都（みやこめっせ）で開催された日本薬剤疫学会は、教室が主催となり、川上研 10 周年の記念式典を兼ねた同門会や、冊子の発行もすることができました。大変盛会となり、皆様のご厚情に感謝しております。

人事では、2017 年 2 月より、AMED 事業により本学に新たに設置された臨床統計学分野の初代の教授として、田中司朗先生が就任されました。当教室とは兄弟の関係として、教育や研究を今後も一緒にしたいと願っているところです。その他、東京大学腎臓内科より、碓井知子講師（特定）が 6 月から新任されます。一方、瀬戸佳穂里特定助教が今春退職、アロンゴワ特定助教は三重大学助教としてご栄転されることになりました。これまでの教室への貢献をありがとうございました。平成 29 年度は、竹内正人准教授（小児科学、臨床疫学）、堀部智久准教授（生化学）、河野雅之講師（薬理学）、川崎洋平講師（生物統計学）、碓井知子講師（腎臓内科学、臨床疫学）、佐藤泉美助教（疫学、生物統計学）、吉田都美

助教（疫学）、井出和希助教（政策科学、疫学）、井内田科子助教（疫学）という教員の体制です。専門職学位課程を修了された山田修平さんは千葉県立がんセンターの医療情報部門のリーダーとして復職となり、平形美樹人さんは東レに復職、宋林さんは CRO 企業に就職、門原公子さんはご自身で立ち上げられた会社で活動されることになりました。PhD コースを修了した岩破将博さんと MCR 修了生の関知嗣さんは研究生として引き続き在籍されています。関さんは臨床医チームの医局長でもあります。PhD コースを修了した徳増裕宣さんは、引き続き倉敷中央病院の医療情報の実質トップ兼リアルワールドデータ (RWD) 社の取締役をされています。DrPH を修了した陳紅燕さんは中国に戻られて引き続き論文執筆を、長井耕太さんはエーザイに復帰、今井匠さんは臨床統計学分野の研究者となっておられます。

教室は今春から、博士課程 4 名（救急医、消化器外科医、腎臓内科医、耳鼻咽喉科医）、博士後期課程 2 名（麻酔科医ご夫妻）、MPH 生 2 名（薬学部卒 2 名）、MCR 生 1 名（循環器内科医）、他大学からの研究生 1 名（循環器内科医）と合計 10 名の優秀な新人を迎えています。臨床医が増えてきたのは大変有難いことです。

2014 年から実施している、全国の自治体が所管する学校健診情報や母子保健情報のデータベース構築については、(一社)健康・医療・教育情報評価推進機構 (HCEI) および学校健診情報センター社 (SHR) と連携して、2016 年度に全国約 50 の自治体と調印し、個人や保護者、自治体への分析還元（一次利用）および二次利用のためのデータベース構築が軌道に乗りました。2017 年度には、連携自治体数の更なる増加とシステムの向上を目指します。また、2015 年からは、HCEI および RWD

社を中心に、全国の医療機関の電子カルテおよびレセプト情報由来の診療情報を統合したデータベースの構築を開始しています。現時点で全国 130 強の医療機関と連携し、契約ベースで 1400 万人規模の診療情報データベースとして構築を続けているところです。

医療や健診の各種情報を接続したライフコースデータの基盤構築については、2017 年 4 月に、いわゆる医療ビッグデータ法案（医療匿名化代理機関法案）が国会で審議されており、各種法律との整合性をとって実施が可能になる見込みです。私も内閣官房からの依頼で、内閣法制局との調整を担当しました。このような基盤整備のために、教室の複数のメンバーが尽力してくれており、とても感謝するとともに将来に期待をしているところです。

また、データベース研究に対する医療者からの期待と学術コミュニティの形成を目指して、医療疫学分野の福原教授を理事長として、2016 年 2 月に日本臨床疫学会を設立しました。本学会組織は、当初私の自宅に登録しましたが、全国の多くの若手医師やアカデミアの先生方からの応援を得て、現在大きく育とうとしています。2017 年 9 月 30 日ー10 月 1 日には、東京大学の康永秀生教授を大会長に、第 1 回年次学術大会が東京大学で開催されます。教室関係者にもぜひご参加頂ければ幸いです。

以上（川上記）



（写真）川上教室 10 周年記念式典写真（2016 年 11 月）

臨床統計学分野/臨床統計家育成コース

臨床統計学（Clinical Biostatistics）は、臨床試験でどのようにデータを集めるか（研究計画）、どのように解析するか（統計解析）といった方法論を提供する科学です。公衆衛生大学院で体系的な専門教育を受けた臨床統計家は、日本では極端に不足しています。欧米（特に大学・公的研究機関・病院）では、日本に比べ十～数十倍の臨床統計家が雇用されており、臨床試験を通じて医療が進歩するための加速装置になっています。

臨床統計家育成コースは、平成 30 年度から開講する 2 年制の専門職学位課程です。本コースは、平成 29 年 2 月に設置された臨床統計学（特定教授 田中司朗、特定研究員 相田麗、今井匠）と医療統計学のスタッフによって運営されます。本コースの学生は、社会健康医学修士（専門職）の学位取得に必要な科目のほかに、コース修了に必要な統計学基礎、臨床統計学などに関する科目を学ぶほか、京都大学医学部附属病院・国立循環器病研究センターでの on the job training による臨床研究に関する実地研修を受けます。本コースは、国立研究開発法人日本医療研究開発機構「生物統計家育成支援事業」の一環で実施しています。本事業では、京都大学大学院と東京大学大学院が生物統計家の育成拠点として選ばれました。



2017 年 4 月 22 日 オープンキャンパス（東

京会場)の様子

4月22日のオープンキャンパス(東京会場)にて行われたコース説明会には20人を超える入学希望者に参加をいただき、カリキュラムや学生生活、キャリアパスについて説明をさせていただきました。参加者のバックグラウンドは、医療関係者9名、民間企業から7名、学生9名と様々で、広報活動にご協力いただいた皆様に感謝を申し上げます。今後も、本コースや臨床統計家の認知が広がるよう活動を行っていきたいと考えております。

医療経済学分野

医療経済学分野では、一貫して、医療システムの質・効率・公正を追求しています。

日々、国や自治体、病院・医療機関などとインタラクションをもって、臨床現場、経営現場、制度政策における縦断的な医療問題解決に挑んでいます。

そのベースには、当研究室の多源的・大規模データベースの構築とアナリティクスの技術があります。巨大なDBを構築し、機械学習、AIもいち早く取り入れています。さらに日々進化させて、医療現場、経営現場、行政の制度・政策づくりに、役立ててもらっています。医療・介護・健康データベース、レセプトのナショナルデータベースNDB、DPCデータベースなどにおいて、当該領域をリードする先進的な取り組みを行い展開してきています。多種のネットワークやフィールドも強みです。当研究室を中核とする病院ネットワークも全国から500病院を超える参加となっています。

医療の質や経済面の評価、向上の研究も進め、また、エビデンスに基づく診療の普及に取り組むとともに、多くの領域と協働して、エビデンスに基づく医療政策の実現プロセス

のフレームワーク形成にも注力しています。

医療の質の地域格差是正、地域医療構想や地域包括ケアシステム、超高齢社会デザイン、産官学の連携を含む健康・介護・医療の向上を基盤としたまちづくり、WHO、OECD、G7 関連施策へのインプットなど、行っています。

卒業生に関しては、医療経済学分野から社会健康医学博士、医学博士合わせて、27人の博士を輩出しています。ちなみに、京大での社会健康医学博士(SPH約15分野)は、現時点で公式Webでの登録が確認できるものは、2017年1月までで76人です。学術界では、全国の大学・大学病院などで、教授、准教授、講師、助教などとして活躍し、実務では、病院長・副院長・部長、理事、中央省庁の官僚、国会議員、有力コンサルタントなどとして、大いにご活躍されています。留学も、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアに行っています。

医療倫理学・遺伝医療学分野

遺伝医療・医療倫理学分野では、2013年度から教育にご尽力下さいました三宅秀彦先生が、この春お茶の水女子大学に異動されました。また、6月からは遺伝カウンセリングの実習先である京大病院遺伝子診療部の教員に山田崇弘先生が着任されることとなりました。2017年度は、博士課程、博士後期課程に各1名が進学、専門職学位課程に3名が入学し、現在、博士課程1名、博士後期課程8名、専門職学位課程8名、研究生2名が在籍しています。また遺伝カウンセラーコース3期生である中川奈保子さんが、日本医療研究開発機構(AMED)が主導する未診断疾患イニシアチブ(IRUD)の研究者として、昨年秋から当教室に加わりました。また、今年も文部科

学省課題解決型高度医療人材養成プログラム（NGSD）の次世代スーパードクター専攻医 1 名をお迎えし、ますますにぎやかになっています。今年度の大きな予定として、小杉教授が研究開発代表者である AMED 班「医療現場でのゲノム情報の適切な開示のための体制整備に関する研究」に向けて、教室のメンバー全体での取り組みがスタートします。また、昨年度出版した『遺伝カウンセリングのためのコミュニケーション論』（小杉眞司編著、メディカルドゥ）に続き、この春、『遺伝カウンセリングのためのコミュニケーションワークブック+DVD』（小杉眞司編著）が完成しました。この教材については、今後実際に活用する機会を設けることになっています。京大 SPH 同窓会のみなさま、お近くにお立ち寄り際にはぜひ教室をのぞいてみて下さい。



健康情報学分野

健康情報学分野は、中山健夫教授と高橋由光准教授のご指導のもと、現在、博士課程/博士後期課程 19 名、専門職学位課程 11 名、研究員/研究生/研修員 13 名など、約 50 名の大所帯で、日々、研究活動に励んでいます。健康情報学では、医療や健康にかかわる情報の発信やコミュニケーションにまつわる研究課題について「つくる・つたえる・つかう」の 3 つの視点を重視し、さまざまなテーマの研究に取り組んでいます。健康情報学教室の

特徴の 1 つが教室メンバーのダイバーシティであり、さまざまな年齢層・国籍・バックグラウンド、経験などを経て、当教室の門をたたき、勉強や研究に励んでいる学生がお互いを励まし合いながら、日々、切磋琢磨しています。

2016 年度の主な行事としては、10 月 29 日、30 日に第 11 回日本禁煙科学会学術総会（大会長：中山健夫）が芝蘭会館で開催されました。健康情報学教室は事務局として携わり、教室から多くの学生がスタッフとして準備や運営に参加しました。2016 年 5 月に高橋裕子先生を特任教授としてお迎えし、2016 年 12 月には、高橋由光先生が准教授に着任されました。2016 年度は 4 名に学位が授与されました（DrPH 1 名、MPH 3 名）。大浦智子さんが「高齢者施設におけるケア目標の設定とニーズ把握の研究：ケア提供者と入所者本人の視点」にて DrPH を取得しました。西村真由美さんは「家族からみた認知症高齢者の望ましい終末期の過ごし方：質的研究による構成要素の探索」にて課題研究優秀賞を受賞しました。

2017 年度は博士後期課程/博士課程に 2 名と専門職学位課程に 2 名、MCR 聴講生 1 名の新生を迎えました。毎年夏に開催される、教室 OB と現役生の交流の場となっている同門会は、今年は 7 月 22 日（土）に京都大学で開催予定です。同窓生の皆さまや現役の学生の研究や活動の発表が行われますので、多くのみなさまのご参加をお待ちしております。また、東京在住の学生や卒業生の交流の場として「健康情報学教室 東京ミーティング」も毎年東京で開催しています。さらに、随時、教室ミーティングやランチョンミーティングなどで、OB/OG のみなさまの活動について、ご講演頂くことも頻繁に行っています。この様な交流から、また新たなアイデアや気づき

も生まれています。在校生と卒業生のネットワークを大切に、これからも健康情報学教室の活動を盛り上げて参りますので、ご支援よろしくお願い致します。

最後になりましたが、「第9回日本ヘルスコミュニケーション学会学術集会」(大会長:中山健夫)を予定しております(2017年9月16-17日@芝蘭会館)。一緒に変わり、共に創る:ヘルスコミュニケーションの「力」をテーマに、皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。

(文責:博士課程2年 河野文子)



2016年度 健康情報学同門会

知的財産経営学分野

知的財産経営学分野は、2016年度に早乙女周子先生が特定教授に昇進され、教員も少しだけ新体制で2017年度を迎えました。学生の方は2017年3月に12期生の鍾亦琳さんが、バイオシミラーの特許出願についての課題研究を修め無事卒業され、台湾に帰国されました。現在、研究成果を英語論文にまとめ、投稿準備中となっています。また、昨年医科学専攻に設立された創薬医学講座との、知的財産及び起業に関する連携活動も始まりました。

毎年恒例の日本知財学会時の同窓会(東京)、忘年会(京都)は今年も開催の予定となっております。お忙しいとは思いますが、たくさんの参加お待ちしております。また、研

究室訪問はいつでも歓迎しますので、メディカルイノベーションセンター棟の新しい研究室にまだお越しになっていない卒業生は、ぜひ一度研究室にもお越しください。教員一同、お待ちしております。



2016年12月 忘年会にて

環境衛生学分野

環境衛生学分野は、小泉昭夫教授をはじめ教員3名と研究補佐員3名、大学院生5名の総勢11名で構成され、「Plain Living, High Thinking (W. Wordsworth)」という指導方針のもと日々研究に励んでおります。この2月から原田浩二准教授がソウル国立大学へ客員准教授として留学しており、4月には小林果助教が中部大学に准教授として栄転し、後任に奥田裕子助教が着任しました。

当研究室では環境研究と遺伝疫学研究を展開しており、相互に関連しながら進めております。主に以下のような研究を行っています。

1. 福島県の放射性物質汚染、避難などによる健康状態
2. 小児の脳血管疾患として東アジアに頻度が高いもやもや病
3. 小児四肢疼痛発作症
4. 各種有機汚染物質の環境問題

もやもや病研究では、感受性遺伝子 **Mysterin (RNF213)** を発見し、その機能解析、他の血管障害との関連の検討を、国内外の機関と共同で行っています。小児四肢疼痛発作症について、原因遺伝子 **SCN11A (Nav1.9)**

を発見し、さらに現在、症例を全国から集積し、解析を行っています。また福島第一原子力発電所事故による避難から帰還している福島県川内村で、健診データを用いた調査から、生活習慣病が事故から2年後においても増加していることを示し、さらに追跡しています。教室行事も夏の納涼、レクリエーションなどお互いの親睦を深めています（昨年は奈良県明日香村）。卒業生の皆様も、近くまで来られた際には、ぜひお立ち寄りください。

小泉昭夫教授は2018年3月に定年を迎えられます。記念講義の日程などについては後日お知らせいたします。みなさんのご来聴をお待ちしております。



健康増進・行動学分野

昨年度は大学院生は PhD コースの1名、MPH コース1名、MCR コース2名が卒業し、古川壽亮教授が2010年に赴任して以来、PhD コース4名、DrPH コース1名、MPH コース4名、MCR コース4名が学位取得となりました。卒業された皆さんは、大学や病院、行政、AMED といった場で活躍されています。現在、古川教授のもと、准教授1名、助教1名、研究員2名、医学専攻博士課程1名、社会健康医学系専攻博士後期課程3名、専門職学位課程1名、MCR コース1名、外国人共同研究者1名が在籍し、臨床疫学と認知行動療法を2本柱に研究を行っています。

研究としては現在、

1. 系統的レビュー（通常のメタアナリシスに加え、ネットワークメタアナリシス、個人データメタアナリシスなど、さらにエビデンスレベルの高い方法論を用いるようになっていきます）

2. 抗うつ剤の適切な使用戦略を確立するための実践的メガトライアル（2000名の患者さんの無作為割り付け比較試験を実施し、論文投稿中です。）

3. うつ病に対するスマートフォン認知行動療法（治療抵抗性うつ病に対する認知行動療法アプリの開発及び無作為割り付け比較試験の実施を終え、現在は活動記録表作成支援アプリの臨床研究を実施しています。）

4. 臨床疫学研究、メタ疫学研究

といったことを行っています。教室の研究や大学院生が考えたテーマの研究を、和気藹々と皆でディスカッションしながら進めています。皆様、是非お気軽にお立ち寄りください。



予防医療学分野

予防医療学分野の教員は、学校医として健康診断や初期診療、産業医として職場巡視や面接指導などを行いながら、臨床実務に直結する研究を行っています。平成29年度4月時点で教員が9名、大学院生（博士課程、修士課程）・特別研究学生が9名、他機関の所属ながら当教室に出入りしている研究者が数

名、事務・教務補佐員 6 名と、教員室や院生室はいつも賑やかです。

平成 28 年度も The New England Journal of Medicine をはじめ多くの英文原著論文が刊行されました。また、川村教授が「プライマリケアの現場における質の高いエビデンスの構築および臨床研究の方法論の浸透」という理由で第 68 回保健文化賞を受賞しました。

教室全体の新たな取り組みとして、Personal Health Record (PHR)の利活用促進を目指した共同研究が始まりました。これは「大学生の健康診断を起点として生涯に渡ってデータの集積を行い、産学連携の枠組みを生かして参加者に質の高い保健サービスを提供しつつ学術に貢献する」というプロジェクトで、「医学と社会をつなぐ研究を行い社会の変革を目指す」という SPH の理念に我々の「臨床の現場からエビデンスを創出する」という理念を融合させたものです。

時代の変遷と共に予防医療学教室も少しずつ新しいチャレンジをしています。月 1~2 回行われる予防医療カンファレンスや毎年夏に行われる合宿などにおいて「自由闊達で和気藹々と切磋琢磨する」という当教室の雰囲気は変わることなく続いています。皆様、京都にお越しの際には、是非お気軽にお立ち寄り下さい。

(文責：助教 松崎 慶一)

学生近況

学生連絡委員会 活動報告

第 17 期学生連絡委員会 委員長 山崎 大

初めまして。第 17 期学生連絡委員会 委員長の山崎大（医療疫学分野）です。今年度も、各教室から選ばれた学生で学生連絡委員会を組織し、第 16 期の先輩方のご指導、そしてこれまでの先輩方が残して下さった資料を元に、活動をさせて頂いております。本紙面をお借りして、今年度のこれまでの活動と、17 期学生連絡委員会の新たな試みにつきまして、ご報告させて頂きます。

学生連絡委員の最大の仕事といっても過言ではない、2 月の課題研究発表会は、担当の先生方のご協力と、委員の活躍で無事に終了致しました。私自身はマイクランナーでしたが、先輩方の立派な発表に驚くとともに、先生方の厳しい質問に私まで緊張してしまいました。

4 月の新入生歓迎会は、いつものようにカンフォアで開催致しました。先生方から新入生への激励の言葉を頂き、新入生はもちろん、開催した学生連絡委員も大変励まされました。恒例のクイズ大会も大盛況でした。

17 期学生連絡委員会の新たな試みとして、本年度より東京大学 SPH との学生交流を開始する予定です。これまでは卒業生の間での交流は行われているとのことでしたが、在校生の交流はありませんでした。学生だからこそ作ることのできる「つながり」があると思います。17 期では東京大学との交流を開始し、後輩達の代で東京大学以外の SPH との交流も始めることができればと期待しております。

京大 SPH の伝統を大切にしつつ、新たな「つながり」を育んでいきたいと思っております。

ます。お力添えの程、何卒、宜しくお願い致します。



課題研究発表会の質疑応答



佐藤先生と新入生の方々（クイズで優勝）



新入生歓迎会 集合写真

卒業生近況 Alumni Activities

第6期生
健康情報学分野 大浦智子

私は、2005年（平成17年）に京大SPHの第6期生として専門職学位課程に入学しました。SPHに入学するまでは、作業療法士として主に京都市内の病院や施設、在宅におけるリハビリテーションに携わっていました。臨床では、患者さんや家族との情報共有や意思決定のあり方について悩むことや疑問を感じることが多く、系統立てて学びたいと感じていたとき、中山健夫先生に出会いました。

入学した後は、英語論文を読むにも多くの時間を費やし、講義に関連する文献を読むことに多くの時間を費やしました。各分野の先生方には本当にお世話になり、感謝しております。また、同級生達には勉強面でも精神面でもたくさん支えられました。いろんなことがインプットされた充実した2年間は、私にとってかけがえのないものです。そして、さらに学び、少しでも研究に携わりたいという思いから博士後期課程に進学し、2010年からは現在の勤務先（星城大学・愛知県）において学部と大学院の教育に従事しています。2017年に博士（社会健康医学）の学位を授与していただいた重みをしっかりと受けとめ、教育・研究に携わるべく決意を新たにしています。

SPH入学当時、私の周りには疫学の知識を持って活動している作業療法士がほとんどおらず、作業療法士の養成教育・卒後教育で取り組む必要性を強く感じました。諸外国の作業療法士養成教育は大学院コースが多いのですが、数年前の国際学会ワークショップで大学院教育を導入している国の作業療法士たち

に「大学院でどんなことを教えるの？」と尋ねたところ、「Evidence-based practice（EBP）と作業科学（作業療法にかかわる理論など）」という答えが返ってきました。実際、社会人大学院生を対象にEBPをどのように教育するかという報告がされていたことを印象深く覚えています。しかし、国内の作業療法士教育に目を向けると、エビデンスの強さや研究デザインについては知られてきたものの、まだまだ発展途上の段階です。SPHで学んだ者の責務として、より多くの医療者（私の場合は理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が主な対象となります）にエビデンスの正しい知識を持ってもらえるような教育に還元していきたいと思っています。

現在の勤務先では、健康情報学分野で学んだことを活かし、一般の方向けの公開講座などで健康情報に関する講座やヘルスコミュニケーション教育に携わる機会をいただいています。さらに、近年は日本公衆衛生学会の危機管理モニタリング委員会「高齢者のQOLと介護予防、高齢者の医療と福祉」グループ（リーダー：石崎達郎先生）、日本訪問リハビリテーション協会の認定訪問療法士制度における認定審査会（2016年度より委員長）において活動する機会を得ました。微力ながら社会に貢献すべく、引き続き精進していきたいと思っています。諸先生方、同窓生の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

編集後記

ニュースレター第8号の発行にあたり、記事の執筆をいただいた各分野、卒業生のみなさま大変ありがとうございました。記事、ニュース、写真、宣伝など、みなさまのご協力よろしくお願いいたします。ニュースレターに加えて、SNSも通じてみなさまに情報をお届けできるようにがんばっていきます。

Facebook page: <https://www.facebook.com/groups/1758206774401313/>

HP: <http://plaza.umin.ac.jp/kusph-aa/>

連絡先登録・更新は Google フォームで: <https://goo.gl/jhRFQ7>

同窓会登録がまだお済みでない方へ

同窓会での活動の案内を行う上で、連絡先を把握したいと考えております。

同窓会に登録いただける方は、

[Google フォーム](#)から登録、

また下記の項目について記入し、

事務局(kusphalumni-office@umin.ac.jp)まで返信お願いいたします。

回答項目(氏名、入学年次、卒業年次、卒業時所属分野、

電子メールアドレス(継続性のあるもの)、住所(任意)、勤務先(任意))

異動がある方へ

連絡先の変更などがありましたら、上記フォームまたはアドレスまでお知らせください。

Want to be listed in the Alumni Association?

Please fill out the [Google form](#),

Or email me at kusphalumni-office@umin.ac.jp! Include your name, your graduation date, and any personal and/or professional information you would like us to contact. We will deliver newsletters and events information.

We'd love to hear from you!

京都大学 SPH 同窓会ニュースレター 第8号



発行 京都大学医学研究科 社会健康医学系専攻同窓会

発行日 2017年6月23日

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町 京都大学医学研究科環境衛生学分野内

TEL 075-753-4490 FAX 075-753-4458

E-mail kusphalumni-office@umin.ac.jp